

ドクターヘリ(救急医療用ヘリコプター)について



正和会
幡垣 正生 議員



質問 ドクターヘリ運航開始から約2年経過した現在の状況は。

市長 福生市は、東京都とドクターヘリに関する協定を締結しており、ドクターヘリ運航時に救急患者を引き継ぐランデブーポイントとして市内3か所の施設を提供している。市内のランデブーポイントにドクター

ヘリが着陸した回数は、令和4年度は12回、令和5年度は2月16日までで9回あった。

子育て支援カード事業について

質問 事業の見直し内容を伺う。

市長 本事業は開始から14年以上が経過。令和6年3月から新たに子育て支援カードの電子化と専用ウェブ

サイトを開設する。登録申請がスマートフォン等ででき、各世帯で複数カードを作るなど市民の利便性向上につながることや事務処理の効率化、さらに専用サイトで簡単に店舗検索や店のPRもできるようになるため、市民、協賛店、行政の三者共に大きなメリットになると考える。



▲ふっさ子育てまるとくカードリニューアルのお知らせ

能登半島地震への支援及び市内建築物の耐震等災害対策について



正和会
小林 貢 議員



質問 能登半島地震への支援内容と今後について伺う。

市長 被災地への支援として、現在は義援金の受付と職員派遣を行っている。義援金の受付は街頭にて実施したほか、市庁舎や図書館等の公共施設にも窓口を設置。1月30日時点で251万1763円の義援金が集まっ

た。多摩26市は、都知事からの依頼に基づき、石川県輪島市へ職員派遣を行っている。住家被害認定業務をリモートで行うため職員1名を都庁へ派遣したほか、今後も被災地の要請や復旧状況等を見ながら、必要に応じてできる限りの対応をしていく。

福生市立学校における教科書採択に

ついて

質問 令和6年度実施の教科書採択について市の所見を伺う。

教育長 市立学校における教科書採択は、法令に基づき福生市教育委員会の責任と権限で行うものであり、採択に当たり公正性と透明性を確保し、適正な採択事務を進めていく。



▲市庁舎で行っている災害義援金受付

長期休業中の学童クラブの昼食について



立憲民主党
市川 佳樹 議員



質問 小学校の夏休み期間等、長期休業中の学童クラブの昼食に係る補助について、市の所見を伺う。

市長 市内学童クラブでの昼食は、基本的に保護者が作る弁当の持参をお願いしているが、保護者の負担を軽減するため、市内全ての学童クラブにおいて、希望者に対しあらかじめ

学童クラブ側で選定した外部の業者に弁当を配送してもらう形で昼食を提供する体制をとっている。令和6年2月現在、学童クラブの入所児童は全児童の25パーセントであり、さらにその中の長期休業中に学童クラブで昼食を注文する家庭への補助を行うとすると、対象世帯が限定的

なものとなり、学童クラブへ通っていない家庭や昼食を注文せずに弁当を持参している家庭との公平性が保てないものとする。従って、現時点では学童クラブの用意する昼食提供サービスを利用する際には、各家庭で費用をご負担いただきたいと思います。



地域振興について



公明党
堀 雄一朗 議員



質問 本市のスタートアップ支援や創業支援拠点誘致について伺う。

市長 市独自の取り組みとして、創業時の初期経費を一部支援する空き店舗活用補助事業や福生市中小企業振興資金融資制度による開業資金の融資等のほか、資金面以外にもセミナーの開催や認定特定創業支援事

業を実施。創業支援拠点の誘致は、東京都中小企業振興公社によると既に多摩地域の支援体制を構築しているため、新たに拠点を設置する意向はないとのことである。

高齢者福祉について

質問 長寿ふれあい食堂推進事業について市の所見を伺う。

市長 令和6年度から創設する長寿ふれあい食堂運営費補助金は、地域の高齢者が会食を通じて交流する場の創出を支援するもの。地域における緩やかな見守りで孤独感の解消、また、スタッフとして参加していただくことで高齢者の生きがいの増進に繋げていきたいと考えている。



▲融資制度に関するパンフレット

学校給食費無償化について



公明党
原田 剛 議員



質問 市の負担による学校給食費の無償化に至った経緯を伺う。

市長 昨今様々な価格高騰が子育て世帯に大きな影響を与えている中、東京都が令和6年度より学校給食費の保護者負担の2分の1を負担する事業を開始する。これを受け、市の財政全体を考慮したうえで、公費負

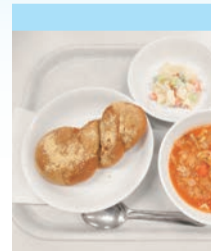
担を決定した。無償化は本来国の責任と財源で対応すべきものという認識に変更はなく、社会状況等を注視しながら、都と連携し国に対し学校給食費の早期無償化を要望していく。

環境への取組について

質問 地域猫活動について伺う。

市長 平成18年度より、福生市地

域猫モデル地区における猫の去勢・不妊手術費助成事業実施要綱を制定し事業を開始した。現在は、ボランティアの4団体が活動している。令和6年1月末で計1129匹に去勢・不妊手術を行い苦情等の相談件数も減少していることから、地域猫活動は着実に成果が出ていると考えている。



▲学校給食の一例

新型コロナウイルスワクチン接種事業の総括について



正和会
小澤 芳輝 議員



質問 事業開始当初は苦労が多かったと聞く。改善の取り組みにより接種率の向上に繋がったこと等を踏まえ、その総括について伺う。

市長 当初は国からのワクチン供給量が少なく、長期的な供給計画が示されなかったため、中長期的な接種体制の構築が困難であった。加え

て、接種予約が集中し予約が取りにくい状況が続いた。職員一丸となり国から示される情報や、刻々と変化する感染状況等に柔軟かつ早急に対応し、予約体制を整え接種を希望する市民が早期に接種できる体制を確保した。3回目以降の接種では65歳以上の高齢者の予約日時指定を実施

し、予約の負担軽減を図った。また、高齢者に対するタクシー利用助成を行い、接種に行きやすい体制を整えた。現在実施中の令和5年秋開始接種の65歳以上の接種率は、多摩地域26市中でトップであり、市民のコロナウイルスへの感染予防及び重症化予防にも寄与できたと実感している。



▲ワクチン接種の様子